

これからの人生にきっと生きるはず

夏休み中に、中体連大会に代わる（代替）大会に参加して、部活動を締めくくった三年生が報告に来ました。校長室に足を運んだのは野球部の三年生と女子ソフトテニス部の三年生。野球部は岐阜県ベスト4、ソフトテニス部は市内優勝という成績を収めました。

ほかの部でも代替大会が催され、北中の三年生徒が参加しています。勝っても負けても、こういう大会が中学生のためには催され、多くの大人が支えてくださったことが、彼らの成長に大きくかかわっていると私は思います。

十年後二十年后、大人になった彼らが、「僕らの時はコロナで中体連の大会が中止になったけど、周りの大人たちが支えてくれてくれたよなあ」と語ることでしょう。当然のように中体連の大会が開かれ、勝っても負けても当然のように部活動が終わるより、取り組めることの「尊さ」「ありがたみ」を強く感じるでしょう。

この夏の高校野球も、例年とは全く違っていました。ひたむきにプレーすることや全力でぶつかることにも何も違いはありません。勝負につきものの勝ったうれしさ負けの悔しさが見る者に真っ先に迫ってくるのではなく、プレーできる喜びや共に過ごした仲間と野球に携われる幸せが、私にはストリートに届きました。それが違いです。これまでなかった高校野球の味わいでした。

中学校においても高等学校においても、今年度の最高学年の生徒たちは、不運であったことは事実です。新型コロナウイルスの影響で「当然のこと」ができなくなってしまったのですから。しかし、その分、周りの人々の配慮に浸り、自分たちを陰で支えてくださる方たちの存在をより強く自覚したことでしょう。これがこれからの人生にきっと生きるはずです。

「人は悲しみが多いほど、人には優しくできるのだから。」

昔流行した歌の中の一節です。まさしくその通りです。将来においても感染症が蔓延してはいけません。万がいち、そういう事態になった時には、大人に成長した彼らが真っ先に未来の子どもたちのことを考えてくれるような気がします。



（八月十八日 記）